



長木川市民ひろばに河原庭園、ともだち広場完成 春風の中を散歩しませんか

長木川河川敷を県内一の河川公園にしようとして五十七年度から工事が進められている「長木川市民ひろば」新設事業は、五十九年度で東大橋く西大橋間の「いきいきコミュニケーション区」の整備がほぼ完了し、今年度からは西大橋から花輪線鉄橋までの「はつらつ健康スポーツ区」を重点に工事が進められます。

白鳥をデザインした アプローチ広場

河原庭園やアプローチ広場がこのほど完成し、さわやかな風の中を家族づれや子供たちの散歩する姿が見られます。

東大橋から西大橋までの間には、これまでシンボル花壇やお祭り広場、野外ステージ、ゲートボールコート、チビッコラグビー場などが設置され市民の皆さんに利用されています。

そしてこの三月には、身近に水に親しむことができる河原庭園やカラビロックで白鳥をデザインしたアプローチ広場、チビッコたちの遊びの場、ともだち広場などが設置されました。

今年から 「はつらつ健康区」 に着手

五十九年度で東大橋から西大橋までの間がほぼ整備されたことにより、これからは西大橋から花輪線の鉄橋まで、河原庭園には約300mにも及ぶせせがみがあり、これから夏場にかけて子供たちが気軽に水遊びができます。



〈長木川市民ひろば新設事業〉

同事業は通産省からの工業再配置促進費補助金を受けて、昭和57年度にスタート、市の中心部を流れる長木川河川敷を利用し、公園的都市緑地として市民のいこいの場を造ろうとするものです。下町橋付近から花輪線鉄橋までの約2.7km(19ha)には「いきいきコミュニケーション区」など3つの区があり、すでに完成しているシンボル花壇には春から秋にかけて6,500本もの花が植えられています。

市長の 対話ノート



No.108

国際森林年

ここ大館の里にも桜前線がときどき、新芽の吹くころとなり身も心も軽くなった思いがします。

「春」と言えば「緑」、そして「緑」と言えば「自然」と連想しますが、今年が国際年の当たり年で「国際青年年」であるとともに、余り知られていませんが「国際森林年」でもあります。

地球上の緑の大部分は森林です。その緑は私たちの生命の源である空気や水、そして作物を育てる土の生みの親であることを知らない人はいないでしょう。ただ、あまりに身近にあり、特に不便も感じないため気にもしていません。

しかし、その森が、林が、本当に先々心配がないのでしょうか。「儲かるから山林を大切に、損をするから放っておく」という誤った認識はないでしょうか。

なぜ住宅が建たないのか、なぜ木材離れになるのか、木材国日本がなぜ六割も外国産木材に頼らなければいけないのか。これら多くの問題に皆さんの深い関心と知恵を結集していただかなければ、いずれ山々は、生命の根源である森林は、荒廃の一途をたどり取り返しのつかない事になるでしょう。市でも今年からは独自で植樹祭を実施する等、緑を守る運動を盛り上げていきたいと思っています。みんなでごえ行動し参加する年にしましょう。

人事異動

四月一日付の人事異動で、課長が次のとおりになりました。

- | | |
|----------|-------|
| 管財課長 | 工藤 友弘 |
| 市民課長 | 下遠 重吉 |
| 働く婦人の家館長 | 佐藤 博信 |
| 青少年ホーム館長 | 明石 幸蔵 |
| 卸売市場長 | 長崎 武 |
| 議会・事務局長 | 桜庭栄次郎 |
| 教委・総務課長 | 田面木敏夫 |
| 社会教育課長 | 松井 勇一 |
| 市民文化会館長 | 斎藤 武志 |

留山 健治郎